

2011年3月11日に発生した東日本大震災では、震源地である宮城県に次いで深刻な被害に見舞われた岩手県。特に、陸前高田市、釜石市、大槌町、宮古市、山田町、大船渡市などの沿岸部は津波やその後の火災により壊滅的な被害を受けました。いまだに避難生活を余儀なくされてる方も多く、岩手県行政書士会でも復興への取り組みを続けています。今回は、岩手県行政書士会の取り組みと被災地の現状についてレポートします。

■ 県内会員の被災状況

岩手県は、四国と同程度の面積を持ち、全国都道府県の中では北海道に次ぐ広さを有する県です。岩手会では、東日本大震災によって、盛岡市にある事務局と職員への被害はありませんでした。また、甚大な被害だった沿岸部においても会員本人への人的被害は免れました。しかし、沿岸部を中心に事務所・自宅への被害は大きく全壊・大規模半壊のほか、すべての財産と日々の営みを失った会員も少なくありません。家屋などと共に複数のご家族を亡くされた会員もあり、まだ仕事に向かえない状況におられると聞いて、一日も早く心に平安が訪れることを祈るばかりでした。

● 会員の被害状況

事務所・自宅 (全壊)	15名
事務所・自宅 (大規模半壊)	3名
事務所のみ (全壊)	3名
自宅のみ (全壊)	3名

■ 岩手県行政書士会の活動

1) 岩手運輸支局主催の廃車手続出張受付所への相談員派遣

「被災者のために我々行政書士が何かしなければ」との思いから運輸支局と連携し、会員を相談員として派遣することを決めました。4月12日～19日に実施された移動相談会では、盛岡市、釜石市、宮古市、山田町、大槌町の5市へ15名の会員が出向き、255件（内86件担当）の相談を受けました。広い県内は自動車

無しの移動は難しく、県民の生活に車は欠かせないものです。とにかく廃車手続を行って、次の車を調達しなければ日々の生活が立ち行かないのが実情で、大半が廃車の相談でした。相談員は、移動距離が長いので早朝から出向き、受付で並ぶ相談者を前に昼食をとる間もなく処理に当たり、夜遅く帰途に就いたこともしばしばだったそうです。もっとも件数の多かった7月11日、陸前高田市では250件の相談中ほぼすべてを行政書士が担当しました。

相談業務に従事していた畠山副会長は忘れられない場面があると言います。親に付いてきた小学4年の少女がとても元気なので「お嬢ちゃん、元気だね」と言うと「うん、私たちは生かされたから頑張る」と答えたそうです。「これを聞いたとき、被災者の皆さんに最後まで付き合うと覚悟を決めた」と述べていました。



相談業務の現場を取り仕切ってきた畠山副会長

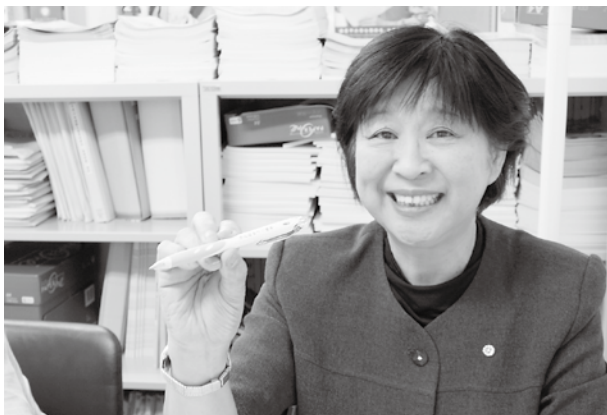
この活動は、9月14日までに合計11回開催され、総相談件数943件のうち行政書士会の相談が774件と大半を占めました。相談員として現地に赴いた会員は、延べ140名、この他、台帳管理・発送作業等の事務

処理担当者も含めると総会員数を超える300名以上の会員が携わった活動となりました。

2) 士業懇談会主催「なんでも相談会」への相談員派遣

岩手会では、平成6年から弁護士などの士業13団体からなる「士業懇談会」を持っています。震災当時の幹事会であった税理士会が呼び掛けを行い、『岩手県内専門家合同相談会（なんでも相談会）』を実施。5月27日を皮切りに宮古市、釜石市、大船渡市、山田町、陸前高田市、大槌町において合計9回開催しました。本年度は行政書士会が幹事として継続開催をしております。

細川副会長は、「どの士業も惜しまぬ努力と心からの善意で行動されたことにとっても感動しました。その中でも他士業の皆さんから、行政書士会が一番大変だったね、行政書士会さんがいないと相談者は少なかったと思います、など労いの言葉と共に評価して頂けたことが嬉しかった」と述べていました。



相談者には「がんばるべ!!岩手」と印字したボールペンを渡していると話す細川副会長

3) 岩手会行政書士会主催の活動

- ・廃車手続無料相談所 23年5月～12月（計9回）
相談員延べ 67名 件数 610件
- ・廃車手続受付&相談会 23年11月～24年3月（計6回）
相談員延べ 39名 件数 126件
- ・電話相談の実施 23年5月～6月 件数54件
- ・法テラス大槌への参加 23年3月～8月 件数21件

■ これまでの活動をふりかえって ～田村会長に聞きました～

当初は「まず、やるべっ」と決めました。理屈をこねても仕方ないし、失敗したらやり直したらいいと、運輸支局の廃車相談を始めました。会員たちが、沿岸部へ行政書士

会のジャンパーを着て行ってくれる。自分の仕事を置いても行ってくれる。何で自分は連れてってくれねえんだ、という会員もいました。そのとき、行政書士会はこんなにいい会だったんだと実感し、本当に有り難いと思いました。



日行連からの支援と岩手会会員の団結力のおかげでここまでできたと語る田村会長

自宅・事務所が被災した会員には、日行連からの義援金で被害に応じた見舞金を渡しました。廃車手続きの費用は、すべて無料にして義援金でまかないました。ボールペンに会の名前と電話番号を入れて相談者に渡したら、とても感謝されました。家が流された人にとっては、ボールペン1本でも有り難かったんですね。日行連と全国からの応援があったので思い切った活動ができました。本当に感謝しています。

廃車手続きはほぼ終わったので、今後は内陸に避難している人向けの相談会を実施していく予定です。700世帯1,800人の方が、ここ盛岡に避難しています。

この度の活動で、行政とのパイプが太くなり、信頼関係も強くなりました。他士業からも行政書士会への評価が上がったように感じます。「行政書士、なかなかやるじゃん」と思ってもらっているようです。今後もこれに応えていきたいと思います。



被災者支援の功績が認められ、国土交通大臣から「東日本大震災関係功労者に対する感謝状」をいただきました（前列左から及川副会長、田村会長、畠山副会長、細川副会長 後列左から坂本会員、廣嶼会員）

復興に向けて ～岩手県の現状～

取材二日目、午前10時～午後4時まで盛岡市復興支援センターにおいて市内仮設住宅に案内を配布した「行政書士によるなんでも相談会」を開催しました。初めての取り組みでしたが、3件の相談がありました。

午後、沿岸部を視察しました。大槌町、陸前高田市、ニュースでは何度も聞いた地名です。見晴らす限り、家

の基礎と鉛のように曲がった鉄筋だけを残して海に続く景色は一面の空地です。土の部分には残さず雑草が茂っています。ふと芭蕉の句がよぎりました。「夏草や兵（つはもの）どもが夢の跡」。平穏な暮らしの中で、突然に命を落とされた皆さまのご冥福をあらためて心からお祈りしました。取材にご協力頂いたすべての人に感謝いたします。

（小倉）



パーティションで区切られた相談会会場



開始前のミーティングの様子



「がんばるべ!!岩手」のボールペンを進呈



法テラス大槌の付近。復興はまだこれからです



大槌町役場。まだ、解体されていない建物もあります



津波により変形した車がいまも残っています



津波の被害を免れた陸前高田市の一本松

■単位会情報

- 1.事務局所在地 岩手県盛岡市菜園1-3-6 農林会館5F
- 2.会長 田村 格
- 3.会員数 315名(H24.9現在)
- 4.支部数 12 支部
(盛岡・紫波・花巻・北上・水沢・一関・大船渡・遠野・釜石・宮古・久慈・二戸)

